

# 宮城県東松島市「官民連携による観光農園を中心とした移転元地の利活用の推進」

## 目的・背景

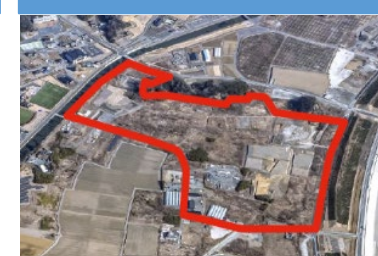
移転元地の有効活用に向け、市が描いた土地利用構想を実現するための『官民連携ビジョン』を作成

- 移転元地を含む約25haの土地活用がなされず、外来種等雑草の繁茂や不法投棄などが**特別名勝松島の景観を阻害**。
- 市は土地活用のための『令和の果樹の花里づくり』構想を描いたが、その実現には**官民連携の取組指針となるビジョンが必要**。

位置図



航空写真



## 取組とその効果

- ワーキンググループが主体となり、**当該地区の取組について地域住民に周知し、理解と協力を得ることを目的としたシンポジウムを開催**。地元の農業経験者等から、当該構想に対するアイデアやアドバイスを得る。
- 取組のコンセプトや基本理念等についてワーキンググループで議論・検討を重ね、**「人と自然を共に育む持続可能な農園」をコンセプトに官民連携ビジョンを作成**。実際にプロジェクトを担うプレイヤーと取組内容、ロードマップを明示して**実効性を確保**。

取組の様子



地域住民を交えたシンポジウム

## 取組経過

- 6～10月 今年度の取組予定と推進体制について確認し、**官民連携ビジョンの作成と、実証実験等の実施を今年度の目標に設定**するとともに、ワーキンググループを随時開催
- 10～12月 ワーキンググループの活動をとおして、**地域住民を交えたシンポジウムの開催と、『官民連携ビジョン』の素案を作成**
- 12～2月 素案をもとに『官民連携ビジョン』をとりまとめるとともに、次年度以降の活動体制を検討・準備

取組成果



左：R4年度から稼働しているイチゴハウス  
右：植樹した梅の実を収穫

## 今後の方向性

- 現在のワーキンググループを発展的に解消して新たに協議会を立ち上げ、**官民連携で取組を推進**。将来的には活動主体を法人化し、**民間主導による取組に移行**
- 現在の活動メンバーに加え、新たに地元農業法人や地域住民等のプレイヤーを巻き込み、**実験的な取組と検証を重ねながら段階的に整備**



地区の将来イメージ（官民連携ビジョンより）